

# カラコネらしい就労Bを模索した15年の歩み

障害者就労支援事業激変期に改めて考える

工賃、居場所、一般就労支援、地域交流

NPO法人カラフル・コネクターズ 就労継続支援B型カラコネオフィス

ボーン クロイド

# 主な目次

- ・ 自己紹介
- ・ カラコネ紹介
- ・ 工賃・作業
- ・ 居場所・生活支援
- ・ 一般就労支援
- ・ 地域交流・地域貢献
- ・ 就労選択支援の影響は?
- ・ これからの就労Bについて

# 自己紹介

- ・ 1959年、横須賀生まれ、3歳から5歳までハワイ・オアフ島、5歳から横浜育ち（母は日本人、父はアメリカ人、国籍はアメリカ）
- ・ 幼稚園と小学校1年はアメリカンスクール その後、日本の小学校に編入し大学まで日本の学校へ
- ・ 大学卒業後、31歳まで日本とアメリカで日本語講師
- ・ 30代、様々なボランティア活動を経験
- ・ 38歳で京都にある仏教系大学に編入、精神、知的、高齢者、路上生活者の支援を経験
- ・ 41歳、精神障害者の人権問題に関心を持ち、精神障害者支援団体に就職 初年度から就労支援業務を担当
- ・ その後、厚生労働省『精神障害者雇用促進モデル事業』や独立行政法人国立のぞみの園『障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上に関する調査研究』等で調査検討会外部委員を経験
- ・ 56歳、カラコネオフィス開設
- ・ 65歳、2025年6月末、理事長を退任し相談役に
- ・ 現在、得度することを目指して浄土真宗の学校に通学中

# カラコネ の 紹介

カラコネは  
今日も  
沸いてます。

カラコネのアトリエ

フラワーアートプロジェクト

カラコネ・ラボプロジェクト

銭湯を支える福祉施設

カラコネ  
NPO法人カラフル・コネクターズ  
就労継続支援B型事業所  
カラコネオフィス

カラコネは  
いろいろな人がいて  
ふつう

多様性を認め合える  
社会をめざして。

「人・もの・街をつなげよう! 支え合おう!」をテーマに、私たちカラフル・コネクターズは地域コミュニティの象徴ともいえる銭湯を拠点に活動しています。障害がある方が地域サービスを支える主体的な担い手として活躍できる場を創出するとともに、出身地やジェンダー、年齢、障害の有無といった壁を越えて、地域で暮らす一人ひとりを大切にできる場づくりに挑戦していきます。

# カラコネ が 目指すもの

- ・「人・もの・街をつなげよう！支え合おう！」をテーマに、私たちカラフル・コネクターズは地域コミュニティの象徴ともいえる銭湯を拠点に活動しています
- ・障害がある方が地域サービスを支える主体的な担い手として活躍できる場を創出するとともに、出身地やジェンダー、年齢、障害の有無といった壁を越えて、地域で暮らす一人ひとりを大切にできる場づくりに挑戦していきます
- ・カラコネは いろいろな人がいて ふつう
- ・多様性を認め合える社会をめざして

# カラコネ の 基本データ

- ・ 開設日：2015年6月1日 定員：20名
- ・ 場所：東京都墨田区（下町地域、両国国技館、スカイツリー）
- ・ 主な作業：2軒の銭湯清掃
- ・ 利用者：精神障害、発達障害、知的障害、高次脳機能障害があり、体を動かす仕事好きな人
- ・ 職員：精神保健福祉士を中心に、社会福祉士、公認心理士など10名（一日あたり6名から7名）
- ・ 開所時間：8時から15時、開所日：月曜から金曜と祝日（土日も開所したいのだが…）
- ・ 平均工賃：30,027円（2024年度工賃 1軒の銭湯が1月からリニューアルで作業が3か月間なくなり、約57万円の減収になったが、工賃算出方法の変更と利用者減で3万をギリギリ超えた）
- ・ 就職定着者：2024年度分は3名（最高で年間6名の就職者徐々に就職者が減少傾向）
- ・ 2024年度からセクシャルマイノリティの方の話し合いの場の提供（すみだカラフル・カフェ）

## 工賃・作業 の特徴

- ・ 2024年度月額平均工賃 30,027円
- ・ 2軒の銭湯の清掃作業が不動のメイン作業（墨田区の銭湯はそれなりに繁盛していたが、店主の高齢化の問題とそれに伴う清掃作業の困難さが問題になっていた⇒そのための廃業が続いていた）
- ・ その他、地域のマンション共用部分清掃、居酒屋清掃・開店準備作業、交流農園の雑草取りなどの清掃作業、イベントでの販売
- ・ 封入作業や子供靴のゴミ取り作業などの内職（座り作業）
- ・ ガチャガチャ、クラフトコーラ等の自主製品づくり
- ・ 一日平均利用者数は18名前後で半数の方が午前中の作業だけで帰宅（午前中の2時間だけでも2万円台後半の工賃、午後の利用状況と作業の見直し中）
- ・ 障害程度や作業能力に合わせた個別の作業の切り出し
- ・ 2025年度就労継続支援B型サービス費（報酬単価）：758

\*今後の作業計画：クラフトコーラ瓶詰商品製造・販売、ロスフラワーを使ったフラワーアートの製造・販売

# 居場所 生活・余暇等 支援 の 特徴

- ・ 基本的に利用を断らない（誰にでも開かれた居場所となるために）
- ・ 障害種別の違いのほか、触法障害者、ひきこもり、若年性認知症等の方たちの受け入れ
- ・ 仕事の合間をぬって様々なプログラムを実施（これまで、フットサル、ボッチャ、ウォーキング/銭湯巡り、喫茶巡り/マインドフルネス、リラクゼーション、太極拳、脳トレ、心理プログラム/高尾山日帰り登山、一泊旅行/ダンスプログラム、アートプログラム/清掃セミナーなど）
- ・ 金銭管理や家族関係の調整なども必要に応じて実施
- ・ 就職などで卒業したOB・OGはいつでも困りごとの相談に来やすい雰囲気づくり



# 一般就労支援 の特徴

- ・（B型ですが）就労移行と同じような一般就労支援体制
- ・就労支援員（ジョブコーチ）2名在籍
- ・ハローワークからの利用者紹介が比較的多く、利用開始時からチームを組んで就労支援できる体制
- ・就労希望者には『就労セミナー』など特別プログラムを提供
- ・履歴書、職歴書の書き方、面接練習、ハローワークでの求人票検索、面接同行、就職後の企業訪問・定着支援
- ・年間2名から4名（最高年間6名）の就職定着者
- ・2025年度就労移行支援体制加算（報酬単価）：237

＊就労選択支援の事業化を目指して準備中

＊基本単価、就労支援加算等を合わせた2025年度  
一人当たり一日利用料は12,966円

## 地域交流・ 地域貢献 の 特徴

- ・ 地域交流系NPOと協力し墨田区産のなすを広める取り組み（寺島なす復活プロジェクト）
- ・ 地域のボランティアの方に協力してもらって、高齢者、障害児者に銭湯の広いお風呂に入ってもらう取り組みを銭湯と共同主催（施浴・ふれあい入浴）
- ・ 地元中学生や母子寮で暮らす子供たちの職業体験、銭湯体験の場としての取り組み
- ・ 食糧支援系NPOや仏教系食糧支援NPOに協力して、一時的貧困状態にある家庭を支援する取り組み（カラコネフードサポート）
- ・ JAZZでまちおこしをしている団体に協力して、カラコネを会場として提供し、運営協力も（すみだストリートジャズフェスティバル）
- ・ 地域のお祭りでは運営のお手伝い（牛嶋神社例大祭）

施設紹介  
の  
動画  
を  
観て  
もらいます  
(5分弱)



# 就労選択支援 の 影響 を 考える

- ・ 就労選択支援はB型潰しか？
- ・ 徐々に利用者確保が難しくなる？
- ・ 現在、主力となっている利用者がいなくなる可能性
- ・ 作業処理能力の高くない、または今まで受け入れた経験のない利用者を受入れた上で高い工賃を出せるようにする必要性

\* カラコネでは10月から就労選択支援を事業化し、体を動かす仕事で一般就労を目指す利用者確保することを目指す予定

(一般就労支援と就労アセスメントのノウハウがあるのが強み)

## B型（旧作業所） に 今 求められる 役割とは？

- ・ 数値化しやすい工賃の高さ（だけ）で評価されることに疑問があるものの、障害者の就労・生活支援のプロとして職員が工賃アップの努力をしないているのは、それ自体が『障害者差別』と捉えられる可能性もあります。
- ・ また、それと同時に、障害者も安心できる居場所・拠り所としての機能や生活の困りごとを専門の職員と一緒に解決し、より良い生活を目指すセンター的な役割を担うのが福祉施設としてのB型であるべきだと思っています。
- ・ 作業はやりがいや社会とのつながりを感じさせるツールのようなものかも知れません。
- ・ どうやって工賃や就労支援以外の福祉サービスも国に評価してもらえるのか、全国のB型事業所全体で真剣に考える時が来ていると思います。

# カラコネ の 2025年度 新規勉強会

- ・ 2027年度報酬改定調査対策検討委員会
  - ・ 障害者施設におけるAI利用準備研究委員会
  - ・ ソーシャルファーム調査検討委員会
  - ・ 新理事長経営管理コンサルテーション
- \* 『おひとりさま』 終活支援事業調査・研究

# 最後に

（次の報酬改定を見据えて  
障害者福祉激変期を  
どう乗りきって  
行ったら良いのか？）

- ・ 国の障害福祉予算が削られていくのは避けられません。その状況でも高い評価を得て、施設運営を継続させるためには...
- ・ 全国のB型平均工賃以上を一つの目標にする！（工賃額で評価する制度はすぐにはなくならない 2023年度令和5年度全国平均工賃は23,053円）
- ・ 地域の産業や困りごとに目を向け、障害者施設が担える作業がないかアンテナを張る、地域ネットワークを利用する、行政にも協力してもらう！
- ・ 一日あたり4時間以上の作業時間を確保する！
- ・ 典型的な障害の有無だけでなく、様々な生きづらさや社会的不利益を被っている方たちを支援できる体制を整備する！
- ・ 地域住民の方に認知され、地域にとって無くてはならない施設となる！
- ・ それを地域行政にも認めてもらう！
- ・ 工賃以外の障害者の生きがい、やりがい支援を組織としてきちんと記録に残し、第三者評価でも評価してもらい、可能なものはSNSなどで発信する！
- ・ 障害者の自立のための『給料』を施設の目標にし、長期的な施設運営を考えるのであれば、ソーシャルファームも選択肢の一つと考え、調査研究をする！！

(この後質疑応答がありますが)

# 事前 に いただいた ご質問

Q,銭湯やマンション・居酒屋の清掃など、現在行っている作業を選ぶに至った経緯やきっかけについて教えてください。

Q,個別作業の切り出しの具体例、特に精神障害をお持ちの利用者様の例について教えてください。

Q,地域交流・地域貢献に取り組む理由・背景等について教えてください。



ありがとう  
ございました

